

第5回高浜市子ども貧困対策会議 議事要旨

日 時 平成30年6月21日(木)
14時00分～16時00分
場 所 いきいき広場2階ホール
委 員 資料のとおり

1. 開会

2. 会長、副会長の選任について

3. 平成29年度の学習支援の実績と今年度の展開について

資料2に記載の事項について、それぞれ意見交換がされた。主な発言の内容は、以下のとおり。

- ステップの進学状況について、定時制に進学した生徒が多いとのことだが、新年度が始まり3ヶ月弱となったが、元気に通っているか。
- 8人が定時制に進学し、1人を除き全員ステップに顔を出している。中学時代に不登校を経験していたり勉強が苦手な生徒も多いが、中にはクラスで4番になった等、よい方向で進んでいる。
- 出口なくただ支援すれば良い、では子どもたちにとっては卒業と同時にしごを外された感じになる。教育の目的とは生きる力を身に付けることなので、中学を卒業する時にいかにその子に適した進路へ進めるよう支援するかがとても重要だと考えている。進学や就職をしてもすぐに辞めてしまっただけでは何もならないので、過去の利用者への追跡調査をすることで、この事業の真価がわかるように思う。
- 中学卒業で終わりではなく、高校等に進んだ後も継続して支援するのが大事、というご指摘についてはそのとおりだと思う。
- 昨年度「あすたか」のアンケート結果を見ると、子どもが満足感を感じているとの回答で宿題を提出できるようになったというのがあった。児童本人も宿題を出せばいいとは思っているが、ちょっとした困難でうまくいかなくなっていたところ、「あすたか」で支援してもらって自信がつき、自己肯定感をもてるようになっていったと感じている。また、勉強以外のことも話ができる、という点も満足感が高いとのこと、高校生等が身近な話し相手になっていただいたのだと思う。
- 小学校で気になっていた子がいたが、中学校の授業を参観した際、とてもいきいきと授業に参加していた。小学校から中学校へと上手につないでいただき、難しい子にも寄り添って長い目で支えていただいたことについて事業の一つの成果として感謝している。
- 追跡調査については、今年度行う予定。「ステップ」利用者の進路については、その都度状況を把握しながら進めていければと考えている。

- 「ステップ・ジュニア」も4～6月の3ヶ月弱で、子どもたちもだいぶ落ち着いてきた。集団の中で友人関係を作るのが難しい子もいるが、一対一で話すと落ち着きを取り戻したりもする。学校では多くの児童がおり、先生も全ての子に寄り添うのは難しいと思うが、「ステップ・ジュニア」で児童と向き合うことで自己肯定感にもつながると感じている。
- 子どもの貧困対策について、高浜市の特徴として小学校4年生から高校生まで一貫して支援しているが、できればもっと前から、例えば保健師と連携して保育園児から見ること必要だと思う。学習支援に来ている子を見ると、年齢よりも幼く感じる子もおり、もっと前から支援が必要であったように感じている。
- 保健師との連携については、生活困窮者に対する自立支援の相談窓口で随時相談を受け付けており、支援が必要となった場合に保健師と連携することもある。連携という面については、福祉部の中で支援していきたいと考えている。
- 困難事例について、例えば発達障害のある児童について、学校等との連携の中で引き継ぎ等はあるのか。
- 月に一度、情報交換をする場を設けており、そこで事例を報告し、対応を協議している。
- 他部署との連携について、実際の事例では保健師が家庭訪問した際、隣家の庭を子ども荒らしている所以对応して欲しいとの依頼を受けたことがある。他にも、保健師から家庭訪問した際に子どもがいつも家におり、学校に行っていないのではないかと等の相談を受けることもある。そのような場合は、学校側と連携をとり対応している。
支援する側から見て通わせたほうがいい、と判断した場合は逐次情報をもらっており、個別の連携はできていると思う。
- 子どもと直接向きあう学習支援のスタッフが、子どもたちにどういった支援が必要かを学ぶ機会がもっとあるといいと思う。昨年度は1回しか研修がなかったというのが残念。
- 中学生からクラスが変わり帰りの時間も変わったせいか、友達と遊ぶなくなってしまい、部活から帰ってきても友達と遊ぶこともなく、土日でもいつも家にいるような状態で心配していたが、「ステップ」に通うようになってから、他の子と交流するようになり、他の中学校の子と遊ぶようになった。週に1度でもそういう場ができたことに感謝している。
- この報告では出てこない、学習支援の前後の時間で遊ぶ時間が出来たとのことで、とても大切なことだと思う。昨年度の「あすたか」では、行事等は非常に熱心にやっていただいていたが、遊ぶ時間がなかったと思う。子ども同士で遊ぶ時間はとても大事なもので、そういう時間があれば、学習集団につながったのではないかとと思う。子どもだからこそ経験して欲しいことの一つとして、一緒に遊ぶということがあるので、今年度検討いただきたい。

4. 平成29年度の子ども健全育成支援員の活動実績について

資料3に記載の事項について、それぞれ意見交換がされた。主な発言の内容は、以下のとおり。

- 中学校で、不登校になる子が増えたとのことで、昨年度の報告では、市外から来た子が不登校になる傾向が多いとの報告があったが、29年度はどうか。

- その傾向はある。特に外国籍の生徒に多い。
- 補足すると、高浜市の人口の約7%が外国人で、県内1位となっている。小中学生の比率では約6%だが、翼小学校では約1割が外国籍。高浜市の人口は増えているが、その半数強が外国籍となっている。ブラジルが一番多く、次いでフィリピン、ベトナム。
転入してきた生徒がとても多く、文化も違うので、例えば大雨の日は学校に来る外国籍の生徒は少ない。それで月に2～3日休むと、通算して年間30日以上欠席で長期欠席生徒となってしまう等、外国籍の生徒にかかわる課題は教育界のテーマになっている。
- 先日、外国籍の親子と面談する予定があったが、通訳を急遽手配して対応しようとしたところ、直前になって生徒側から直前のキャンセルが入ったケースがあった。両親としては中学校に通わせたいという意向があったものの、結局ブラジル人学校に行く方向になっている。言葉の壁も大きく、先生が家庭訪問にいても言葉が通じず苦慮している。
- 小学校低学年のうちに転入してきた場合は、日本語が不自由なく話せるようになり進学後も元気に通っている子も多いが、小学校5～6年から転入すると、言葉の壁が厚く厳しい、というのが実状。
- 「ステップ」利用者の主な進学先として、碧南高校の定時制や刈谷東高校が挙がっているが、去年は碧南の定時制の入学説明会に100人以上集まった。例年は35人くらいであり、これは危ないぞ、という話になったくらいの急増だった。
- 近年の特徴として、公立高校が受からなかったから定時制、というのではなく最初から夜間定時制を第一志望で目指す生徒が増えているという傾向がある。その理由として、私立高校や専修学校は費用が高いということで、実際は所得に応じた補助があるものの、費用面から最初から定時制を目指す生徒が増えている。今年も進路希望調査をとったが、公立高校に行きたいという生徒がほとんど。
- 専修学校の入学金については補助が出ないので、昨年度、行くことが決まっていたが入学金が払えずに断念した、という事例が1件出てしまった。
- ここまでの議論をまとめると、大きく2つ、外国籍の子を会としてどう扱うか、ということと、評価指標について、不登校傾向のある転入してきた子を評価対象にそのままに含めてしまうと、成果がはかれなくなってしまうという問題があるので、ご検討いただきたい。
- 「ステップ」を対象にした評価は、参加者数を基にしている。「ステップ」単体でみると、今のところ高校中退も一人もおらず、「ステップ・ジュニア」については、小学校卒業後「ステップ」に移行しているか等、母体だけの指標を見ればミクロな視点での成果はだせる。
- 評価軸の問題で、事業の直接の成果（アウトカム）としてはその通りだが、その事業が市・社会全体に与える影響（インパクト）、という視点でみると、流入した児童の評価を加えてしまうと、違う要因が入ってくるので、評価が難しくなる。
- キャリア教育を研究してきた立場から話をすると、高校段階で、中退・卒業後進路未決、就職したが離職、という3つのリスクがあり、これを埋めることができれば、自分の力で生きける可能性が大きく高まると思っている。そういう面では、そこまで見ている高浜市

の学習支援の取り組みは極めて重要であると考えている。

○定時制と通信制の問題を考える委員を務めており、先日会合があったが、そこで一番課題になっていることとして、今まで定時制が果たしてきた役割が変わってきているという点がある。本来、勤労学生のための学校として創立したが、今は働いていない生徒や、学力が低くかつ経済的な面で私学等に進学できなかったため公立定時制に来た、という生徒がととも増えている。

このため、学校に来ない生徒や学び直しが必要な生徒が増えているが、学び直しについては、現在の定時制の枠組みやプログラムでは不十分との議論があった。

○公立の定時制に行けたから大丈夫、ということで支援を終わらせるのではなく、進路指導を学校だけに任せきりにせず、適切な進路先に着地させていくことが今年の重要なテーマになると思う。結果として就職できなかった、ということにならないよう、採用して育ててくれるような就職先を探していきたい。

○外国籍の生徒については非常に難しい問題で、場合によっては支援する側も多 国籍の対応をする可能性もある、今後多文化共生のNPO等への協力要請等が必要となるかもしれない。外国籍の方が増えると、クラスター化し、同じ国籍の人を呼んで増えていくという傾向があり、今後の状況次第では、学習支援もそれに対応していく必要があると思う。

○外国籍のひとり親の方が増えている。日本にきてから10年、20年経つが日本語が片言だったり、日常会話はできるが、読み書きができないという親が多い。就職等について相談され、噛み砕いて説明するが書面が読めず、持ち帰って子どもに読んでもらう、ということも多い。このような場合、日本語ができないので就労できない、という方が多い。

○母子手当、児童扶養手当についても、宗教的な問題で離婚の成立が難しい母親や、必要書類、独身証明書や出征証明書を取り寄せるのが困難な母親がいる。そのため、受給要件は満たしているのに手当をもらうことができない家庭がある。

手続きの煩雑さから申請しなくてもいい、という親も実際に多くいる。就労収入がなかなか得られない、母子手当の受給が難しいということから、外国籍の方の貧困が今後大きな問題になってくると認識している。

○日本語の読み書きができないと、外国籍コミュニティの情報に頼って行動してしまうので、間違った情報に基づいて動いてしまうことも多い。外国籍の子どもたちへの支援を考える際は、親が子どもたちに何ができるのかを把握することが必要であると常々思っている。

○この点については継続して検討すべき課題だと思うので、次回までに整理して欲しい。

5. 前回の議論を踏まえた対応等について

資料4に記載の事項について、それぞれ意見交換がされた。主な発言の内容は、以下のとおり。

(1) 成果指標に関すること

(2) 保護者との情報共有に関すること

○昨年度までは翼小学校が会場になっていたが、今回いきいき広場に変更になったとのこと

で、翼児童センターからこの点についてご意見等あればお願いしたい。

○昨年度は、夏の暑い時期に小学校の教室で活動するより、児童センターの部屋を貸したほうがいいのでは、ということで、合計7日間くらい提供したが、こどもたちの大半が翼小学校の生徒で顔見知りだったこともあり、受け入れはスムーズだった。当初、児童センターは子どもたちが遊びにくる賑やかな場であり、事業ができるのかとも思ったが、先生たちの努力でやっていただけたかと思っている。遊びたいと会場から抜け出してくる子がいるかとも思ったが特になかった。

高取小学校の児童は車で送迎していたが、その子たちも参加できていた。翼小学校の児童は移動がなかったのがよかった反面、学校とあまり変化のないところで活動していたというのが、子どもたちの気持ちの面でどうだったのかな、というのはある。

今年度はいきいき広場に変更になったとのことで、子どもたちが引き続き支援を受けられるようになったのはよかったと思っている。翼小学校が送迎の待ち合わせ場所になっているので、ステップに行く際の待ち合わせの時間を児童センターで遊んだりしているので、子どもたちとのつながりは継続している。

○今回、小学生と中高生の学習支援が統合になったとのことで、その理由と、会場がいきいき広場に変更になった理由と併せて事務局から説明いただきたい。

○平成28年度卒業生で、「あすたか」から「ステップ」につながった子が1人もいなかった。理由を聞くと、部活動が忙しい等の理由ではあったが、子どもの貧困の連鎖の防止にあたっては、息の長い支援が必要であると考えており、小学生から中学生、高校生とスムーズに移行する体制を整えるために、事業を統合した。

また、働いている親のことを考えると夜まで事業を行う必要があるが、小学校を会場にすると、日没の下校時間までに終わらせなければならず、特に冬は支援時間が短くなり、高校生ボランティアの活動時間も実質無くなってしまっていた。

このため、小学校卒業後も違和感なく支援を続けてもらうためには、事業を統合し、併せて会場もいきいき広場に統一することで、翼小学校以外の生徒にも使いやすくするとともに、夜19時まで支援を行うことで働いている親をサポートしたいとの考えから、事業を変更した。

○今回、新しい形になったので、進捗状況を次回の会議で報告して欲しい。

4. その他

○次回の開催について

今回は、10月頃に日程調整の連絡を行う。

[予定議題]

- ① 学習支援事業と地域との連携について
- ② 平成30年度の「ステップ」「ステップ・ジュニア」の状況報告
- ③ 今回の議論を踏まえた対応方針等
- ④ その他